

**刑 法**（配点 60 点）

**【問題】**

以下の【設例】を読んで、甲及び乙の罪責を検討しなさい（ただし、特別法違反の点は除く）。

**【設例】**

1. 暴走族グループAに所属している甲は、暴走族グループBに所属しているVと敵対関係にあったが、そのような状況において、令和3年12月30日の深夜、甲とVがひと気のない河川敷において、素手による一対一の喧嘩を行うことになった。
2. 当日午後11時頃、甲とVが河川敷に赴き、まさに二人による殴り合いの喧嘩が始まろうとした際、甲は空手の有段者であったことから、先制攻撃とばかりにVの頭頂部に1度回し蹴りを行った。すると、Vはその一撃で転倒し、地面にあった大きな岩に頭を打ち付けて出血し、意識を喪失してしまった。
3. 甲は自分の一撃でVが転倒してしまったことに驚き、Vの様子を伺ったが、Vが岩に頭を打ち付けた際に大きな音がしたこと、Vの頭から大量の出血があったことからVが死んでしまったものと認識した。慌てた甲は、自身の犯行を隠すためにVの死体をなんとか始末しようと考え、同じ暴走族グループAに所属する甲の友人乙に携帯電話で連絡を取り、一部始終を話してVの死体を隠す手伝いを依頼した。すると、乙は甲の話信じた上で甲の依頼を承諾し、人ひとりが包めるほどの大きなブルーシートを持って甲のいる河川敷に向かった。
4. 同日深夜11時45分頃、乙が甲のいる河川敷に到着すると、そこには甲と頭部が血塗れになったVが横たわっていた。そこで、乙は甲に対し、乙が持参したブルーシートにVの死体を包んでVの姿が簡単に露見しないようにし、そのままブルーシートごとVの死体を河川に流してしまおうと提案したところ、甲はそれを了承した。
5. その後すぐに、甲がVの足元側から、乙がVの頭部側からVをブルーシートに包む作業を開始したが、その作業の際、乙は、Vの眉間が動いていること、鼻から呼吸をしていることに気がついたため、Vがまだ生きていることについて確信した。しかし、乙も常日頃からVに対して恨みを募らせていたので、乙は、この機会にVを河川に沈めて殺してしまおうと考え、甲に対してはVがまだ生きていることを告げずに、そのまま甲と共にVをブルーシートに包む作業を続けた。
6. そして、翌日0時15分頃、甲と乙は、共にブルーシートに包まれたVを河川に投げ捨てたが、その後、意識を喪失していたVは河川の水を大量に飲んで溺死した。

以上